## 髙西 正人 議員

# 町独自の英語教育はいつから

村上教務課長

## 平成18年度よりすべての小中学校で

**問 町独自の英語教育はいつから、またその内容は。**

**村上教務課長** 平成18年度より、町内全ての小中学校でALT（英語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーの英語に親しむ授業、また平成29年度より、教員の英語指導力向上のため近隣の塾より講師を招き授業を行っている。

**問 英検塾の対象者、受講者数、合格率は。**

**村上課長** 対象者は中学生。本年度受講者数は52名、合格率は平均90．5％である。また、京築管内では本町のみの実施。

**問 英語を勉強するときの大事な部分として、話すことを競う福岡県英語スピーチコンテストの参加への検討は。**

**村上課長** 平成30年度から始まり今年で2回目のコンテスト。学んだ英語を活かし、生徒の自信にもつながるので、学校長を通し参加を呼び掛けたい。

**問 町内で英語を使う機会は。**

**村上課長** 国内留学体験事業（5年生）、バンコク友好の翼事業（6年生）、タイのチュラローンコーン大学附属小学校との交流事業（全小学校）、ホームステイの機会（5年生）など英語でのコミュニケーションを図る場を設けている。

▶チュラローンコーン大学附属小学校との交流事業

**問 英語を日常的に使える場としての、部活動としてのeスポーツは考えていないか。**

**村上課長** eスポーツとは、コンピューターゲームなどを使ったスポーツ競技で、海外ではプロスポーツ選手として認める国もある。2024年開催予定のパリ五輪ではメダル種目として追加予定である。日本国内ではまだ発足したばかりであり、対戦ゲームにはまりこみ、不登校におちいっている児童が増えていると考えられるので、現段階で教育活動の場への導入は時期尚早である。

# インターネット無料ツールやアプリの活用は

**問 現在上毛町で活用している無料ツールやアプリは。**

**堀企画情報課長** 無料ツールはグーグルアナリティクス※①。無料アプリはフェイスブック※②を活用している。

※①グーグルが提供するホームページを分析するための無料のツール。どこの国、どこの都市から閲覧したか、何分間閲覧したかなどがわかる。

※②写真や動画を文章と共に投稿して、インターネット上で情報発信を行える無料のアプリ。

**問 グーグルアナリティクスの閲覧、訪問者、滞在時間など項目毎の実績は。**

**堀課長** 本年度4月1日から11月30日までで、国外からは、韓国、アメリカ、中国、タイ、台湾、インドなどからアクセスがあった。日本国内では、上位から順に、大分、福岡、大阪、東京、新潟、神奈川、愛知、鹿児島、広島、兵庫となっている。訪問者数は、国内海外合わせて5万3000件。そのうち新規の訪問者が5万件。平均セッション時間（滞在時間）は約2分。

**問 グーグルの日本での検索シェア率はどのくらいか。**

**堀課長** インターネットサービスに特化した世界規模のテクノロジー企業であるグーグルの日本国内での検索シェアは70％と認識している。

**問 道の駅しんよしとみで活用している無料アプリのグーグルマイビジネスの実績は。**

**堀課長** 直近30日間で、直接閲覧数※①が7600件、間接閲覧数※②は8万5000件。多い時は、間接閲覧数が13万件あった。

※①道の駅しんよしとみで検索された数。

※②道の駅しんよしとみに関連する言葉で検索された数。

**問 無料アプリのより一層の活用のため、ITアドバイザーの設置を検討してみては。**

**堀課長** 町のPRや移住・定住に繋がる手段として、ホームページリニューアル、上毛町アプリの導入、PR動画作成などを展開している。人選的なことや任用方法、予算など様々な課題を検討する時間をいただきたい。

KOGE

QRコード

（Android用） （iphone用）

▲12月25日より町の情報を簡単に検索できる上毛町アプリの提供を開始しています。

## 岩花 寛之 議員

# 人口ビジョン・総合戦略の進捗は

堀企画情報課長

## 様々な施策により効果が出ている

**問 本事業の取組による効果の概要は。**

**堀企画情報課長** コモンパーク上毛彩葉の分譲住宅整備による約200人の住民登録、新婚・子育て世帯新生活応援事業の創設、企業誘致のための工場適地の確保、ICT機器導入事業の実施、町内全域におけるインターネットの環境整備、Wi-Fiステーションなどがあげられる。

**問 進捗管理ではどのような把握と検証、改善を行っているか。**

**堀課長** 毎年度、PDCAサイクル※を利用した検証を行っている。各課からの報告を受け、次年度の政策検討や、新たに必要となる制度の創設などを行っている。

※生産技術における品質管理などの継続的改善手法。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法。

**問 毎年度のPDCAサイクルの中で各目標値の修正はあるか。**

**堀課長** KPI※の数値に関しては計画期間が5年であるため、5年ごとの人口ビジョン、総合戦略の改定において変えていきたいと考える。

※組織の目標を達成するための重要な業績評価の指標。達成状況を定点観測することで、目標達成に向けた組織の進捗の動向を把握できる。

**問 計画時と状況が大きく変わったものに関しては修正が必要ではないか。**

**岡崎総務課長** 年度ごとの業務については行政評価や総合計画の見直しの中で修正をかけている。

**問 議会としては予算書と決算書でしか確認できないが、行政評価の内容をチェック、評価する機会をもてないか。**

**岡崎課長** 決算での成果説明資料や予算書の概要説明資料にて説明をしていると理解している。

**問 他市町では決算書の補足資料として行政評価の添付や、HPにおいて一般住民にも公開しているところもあるが、理解を深めるためにも改善することはできないか。**

**岡崎課長** 新規の政策が総合計画のどの分野に基づく施策であるかは来年度予算から表記を行うよう指示したい。

▲第2次上毛町総合計画

# プロポーザル方式の選定

**問 本年度のプロポーザル方式での選定状況は。**

**岡崎課長** 本年度は10件の選定を行っている。

**問 様々な提案が出るのがプロポーザル方式のメリットだと思うが、10件中半数ほどが公募一者だけであることについての所感は。**

**岡崎課長** 本来多くの応募をもらいたい思いはある。内容の違いもあり一概には言えないが、予算規模や応募に関する費用に見合うだけの利益が上がるかを事業者が勘案しての結果だと思う。

**問 選定結果に関しては広報の観点から公開してもらいたいが方向性は。**

**岡崎課長** 今後、結果に関しては公開するよう指示する。

**問 プロポーザルでは設計者や事業者は決まるが、その内容に関しては情報共有されていないように感じるが。**

**岡崎課長** 体育館などはある程度の絵ができた段階で説明の機会を設ける予定だが、途中段階では執行権の範囲と捉えており、信頼関係に基づいて行っている。

**問 一般的に行政は減点主義と言われる印象があるが、失敗ではなく効果が出ない方法が分かったという前進であると考えるが、その後のリカバリーに対しての考え方も含め、町長の考えは。**

**坪根町長** 民間でもしっかりとした目標を立て、努力してもうまくいかないことはある。ただ、それが失敗とは思わず次の糧となると理解している。当町の一番の目標は人口を増やすということであり、現時点では各課職員の努力が実り、結果が出てきている。さらに修正し、パワーアップさせ、上毛町を選んでもらえるようにしたい。

**問 議会に対する説明は。**

**堀課長** 総合戦略については改めて説明の機会を設ける。

**問 今回は住民ワークショップや有識者会議などは行うか。**

**堀課長** ワークショップについては考えていないが、有識者会議は開催し様々な意見聴取を行う。